



二つのかべ

明治学園小学校 1年 能美 にな

わたしのかべは、かみでできている。ときどきぬのにかわることもある。そしてそのかべはいつもわたしのまえにある。そう、わたしにとつての「かべ」は、マスクだ。

わたしはことし一ねんせいになった。あたらしいともだちをたくさんつくろうとはりきつていて、がつこうがはじまるのが、まちどおしかつた。でも、しんがたコロナウイルスのせいいで、がつこうではかならずマスクをしなければいけないことになってしまった。やすみじかんも、なるべくおしゃべりをしないですごさないといけない。マスクをしていると、かおがみえないと、かおがみえないと、どんなきもちなのかわからないので、とてもふあんだ。マスクが「みえるかべ」なら、このふあんきも

ちが、「みえないかべ」なんじやないかなとおもつた。

そこで、おかあさんとそだんして、「かべをこわそそう大きせん」をすることにした。「みえるかべ」のマスクははずせないけれど、「みえないかべ」はすこしでもひくくすることができるじやないかなとおもつたのだ。マスクをすると口がうごかしくくなるので、こえはひくくなるし、はつきりきこえにくくなる。きいている人は、「おこつているのかな」とかんじるかも

しれない。そこで、なるべく口を大きくあけて、ふだんよりもかいこえをだすこととした。ただおおきくするだけではどなつていうようにきこえるかもしれないけれど、えがおで大きなこえをだすようにすると、「あかるくげんきな」こえになることがわかった。おしゃべりはできないので、さくせんをじつこうするチャンスは、あいさつのときだ。

わたしのかべにはみえるかべとみえないかべがある。でも、みえないかべは、わたしのさくせんで、すこしひくくなつた。きっともうすぐ、マスクをしなくていい日がやつてくる。それまでに、みえないかべはこわしておきたいなとおもう。

(審査評) 能美になさん、おめでとうございます。今年、マスクを壁に見立てる作品は他にもありました。しかし、マスクによつて「人の気持ちがわからぬ不安」を「見えない壁」に見立てたのは能美さんだけでした。その視点とお母さんとともに作った「見えない壁」を壊す作戦と成果を大いに評価します。マスクをはずす時がきたとき「明るく元気な声」を出すことを心がけていたになさんの笑顔はとっても素敵なはず。早くその笑顔がみたいです。

蓼田吉昭